

一 般 質 問

9月議会では、4名の議員が一般質問を行いました。

県立海部病院を津波に

強い安全な場所へ

櫻谷 千重子 議員

現在の海部病院は河川のそばにあり、津波が来れば二階まで、ことによっては三階まで浸かってしまう恐れがあります。一階、二階には病院の機能の大半が含まれています。そこで、耐震も含め津波に対応できるように、高台への移設を推進しなければなりません。現時点ではどこに移設する

のが最も良いのか、勿論、町民の皆さんが通院に便利で、海部病院が培ってきた文化や働く場所として考えた上での計画を模索しなければなりません。東海・東南海・南海の三連動地震津波にも対応できるように、安全な海部病院を早急に整備することを県知事へ要望に伺いました。



県立海部病院

県の方で検討していただくことはしていただくとして、津波に強い海部病院の土地の確保を牟岐町が早急に検討していくべきではないですか。

町長

三連動地震が発生した場合、現在の海部病院は大きな被害を受けることが予想され、建物が使用可能であっても、津波後のがれき等により外部からの進入が阻害されることが想定されます。

牟岐町としましては、周辺道路も含め津波被害を受けない場所へ移転をしてい

ただくことが最良の策と考えています。県も徳島県地域医療再生計画の中で、海部病院における災害医療センター機能の整備を掲げていることから、県の財政も厳しい状況にはありますが、国の予算措置状況によっては、海部病院の移転も夢ではないと考えています。

牟岐町に土地が用意できずに実現しなかったというのでは、海部郡の住民の方に対して、県に対しても説明できません。何とか早い段階で将来を見据えた行動を開始する必要があると考えています。

牟岐町にぎわい交流事業とは

一山 稔 議員

にぎわい交流事業は、町長の立案ですか、どのような経緯で計画に至ったのか。店舗の持ち主との契約等はどのようになっているのか。

生産者の中には大型店舗と契約している方や、漁業者は県外などへ出荷しているが、販売する品物の確保はできるのか。

地元、町内の商店や商工